

脳神経外科学系神経外科学分野



脳神経外科研修

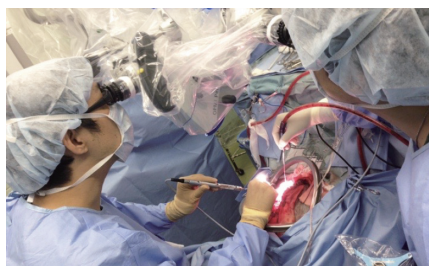
脳神経外科の醍醐味は、やはり何と言っても、救急医療です。日本大学医学部附属板橋病院病院には救命救急センターが併設されているため、日夜重症の患者さんが搬送されてきます。重症頭部外傷や急性期脳梗塞、脳出血やくも膜下出血など、一分一秒を争うような緊迫した局面に立ち向かい、緊急手術を無事に終えた時の達成感はとても大きいです。

一方で、脳腫瘍や機能的疾患など、患者さんとじっくりと話をし、綿密な治療計画を立てた上で正確な手術を行う領域も多くあります。脳という命に直結する臓器を扱う外科医として、病気だけではなく、患者さんの人生そのものをケアしていかなければなりません。この責任は重いですが、その分、一つ一つの仕事に常にやりがいを感じることができます。

脳神経外科では、脳梗塞や頭痛、めまい、不随意運動など、脳神経に関する様々な内科的疾患に対する内科的治療も行います。これが、脳神経外科学会が外科学会の2階の学会、ではなく、脳神経外科単科で1階（基本領域）の学会として扱われる理由です。手術適応の有無に関わらず、患者さんを初診から終診まで、一貫して診療できることも当科の大きな魅力です。また、これは、脳神経外科が開業しやすい理由にもなっています。

脳神経外科では、小児の脳神経疾患も、全て脳神経外科が診療します。新生児からご老人まで、年齢を問わず全ての患者さんを診療することができます。

脳神経外科では、素早い決断をする判断力や、命に直結する脳を手術する外科医としての責任感が求められます。そのため、当科では、当科を選んでくれた専修医の皆様に、少しでも早く一人前の脳神経外科医になってもらえるよう、そして、患者さんに世界最高水準の治療を提供できる医師になってもらえるよう、研修プログラムを作成しています。



脳神経外科では、顕微鏡を使った手術がメインになります。

脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術や、脳出血に対する開頭血腫除去術、くも膜下出血に対する開頭クリッピング術など、日本大学脳神経外科では、あらゆる手術を行なっています。



また、日本大学脳神経外科では、一般の病院ではなかなか経験することが難しいような、特殊な手術も数多く行なっています。

下垂体腫瘍に対する経鼻内視鏡手術→



←血管内（カテーテル）手術
くも膜下出血に対する動脈瘤コイル塞栓術や、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法などを行なっています。



↑定位的脳神経外科手術

パーキンソン病に対する脳深部刺激療法や、難治性疼痛に対する脊髄刺激療法などを行なっています。

専攻医 1、2 年目に執刀する主な手術

慢性硬膜下血腫に対する穿頭血腫洗浄ドレナージ術、水頭症に対する脳室-腹腔シャント術、重症頭部外傷に対する開頭減圧術および頭蓋形成術、急性硬膜下血腫に対する開頭血腫除去術、脳室ドレナージ術、脊髄刺激装置交換術、脳血管撮影など。

専攻医 3 年目に執刀する主な手術

くも膜下出血に対する開頭クリッピング術、脳出血に対する開頭血腫除去術など。

専攻医 4 年目に執刀する主な手術

脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法など。

日本大学医学部附属板橋病院および駿河台日本大学病院を合わせた年間の主な手術の件数は、概ね以下の通りです。

開頭腫瘍摘出術	約 60 件	内視鏡下腫瘍摘出術	約 20 件
開頭クリッピング術	約 50 件	開頭血腫除去術	約 80 件
穿頭血腫洗浄ドレナージ術	約 80 件	脳室（腰椎）-腹腔シャント術	約 20 件
脳深部刺激療法	約 20 件	脊髄刺激療法	約 5 件
脳血管バイパス術	約 20 件	頸動脈内膜剥離術	約 5 件
血管内（カテーテル）手術	約 90 件		

関連病院での研修

専門医取得までの期間は基本的に日本大学医学部附属板橋病院で研修をします。しかし、様々な症例や手術を経験するために、一定期間を関連病院で研修できるよう、プログラムが組まれています。

主な関連病院

日本大学病院（駿河台）	国立病院機構埼玉病院
川口市立医療センター	東京曳舟病院
上尾中央病院	春日部市立医療センター
横浜新都市脳神経外科病院	JCHO 横浜中央病院
みつわ台総合病院	田中脳神経外科病院
苑田第一病院	第三北品川病院
東松山市立市民病院	本庄総合病院
日本大学松戸歯学部付属病院	白十字総合病院
藤崎病院	千葉南病院
丸山記念総合病院	埼玉県総合リハビリテーションセンター

専門医取得後のサブスペシャリティー

脳神経外科専門医を取得した後に、さらに高い専門性を追求するため、希望の専門分野について研修を行うことが可能です。脳神経外科に関連する様々なサブスペシャリティーについて、専門スタッフと豊富な症例数を有しており、

日本脳卒中学会認定専門医、
日本脳神経血管内治療学会認定専門医、
日本内分泌学会認定専門医、
日本脳神経外傷学会認定専門医、
日本救急医学会専門医、
日本臨床神経生理学会専門医、
日本神経内視鏡学会技術認定医、
日本小児神経外科学会認定医、
日本脊髄外科学会脊髄外科認定医、
日本脳卒中の外科学会技術認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本定位・機能神経外科学会 機能的定位脳手術技術認定医
日本頭痛学会専門医 ITB（バクロフェン髄注療法）実施医
ICD 制度協議会 インфекションコントロールドクター
日本脳神経外科救急学会認定
PNLS ボトックス実施医
などの資格を取得することができます。



経験豊富なスタッフの指導の下、専修医の先生達が積極的に様々な手術を執刀しています。

日本大学脳神経外科には、脳神経外科の6領域（脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、小児疾患、脊椎脊髄疾患、機能外科）全てのスペシャリストが揃っており、専門医取得に向けて十分な研修を積むことができます。

脳神経外科の6領域

脳腫瘍：

悪性脳腫瘍（神経膠腫／グリオーマ、膠芽腫／グリオブラストーマ、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍など）や頭蓋底腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫、頭蓋咽頭腫など）、間脳下垂体腫瘍（下垂体腺腫、ラトケ嚢胞など）、小児脳腫瘍（髄芽腫、胚細胞腫瘍など）など、あらゆる脳腫瘍に対し、最先端の手術加療を行っています。

脳血管障害：

救命救急センター内にあるStroke Care Unitにおいて、救命救急科医師と共に脳卒中超急性期の集中治療を行っています。クリッピング術やバイパス術などの直達手術、およびコイリング術などの血管内治療、どちらの手術にも精通しています。

神経外傷：

当院には救命救急センターがあるため、重症頭部外傷の患者さんが多く搬送されます。緊急手術により多くの患者さんの命を日夜救っています。

小児疾患：

小児脳腫瘍の他、先天性奇形疾患など、小児特有の疾患に対しても手術加療を行っています。

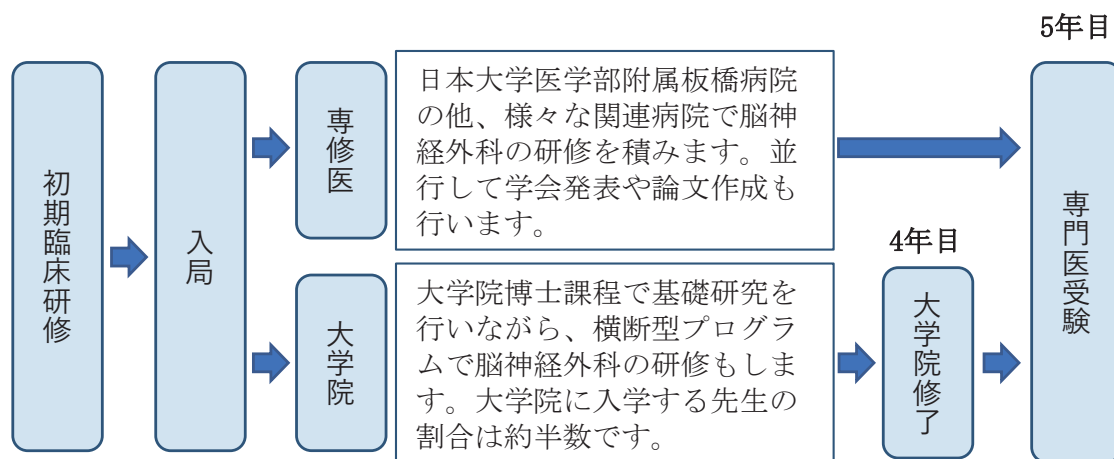
脊椎脊髄疾患：

関連施設にハイボリュームセンターがあり、希望者は短期集中で研鑽を積むことができます。

機能的脳神経外科：

パーキンソン病、本態性振戦、ジストニアなどの不随意運動、脳卒中後疼痛、幻肢痛、脊髄手術後の疼痛などの難治性の痛み（神経障害性疼痛）、脳卒中後の痙縮、顔面けいれんなどの疾患に対する手術を行なっています。日本大学脳神経外科は、この日本の分野における草分け的な存在です。

研修スケジュール（モデルコース）



1 週間の大まかなスケジュール

毎朝、8時30分～ カンファレンス（申し送り）

月曜日：手術（開頭腫瘍摘出術や内視鏡下腫瘍摘出術、開頭クリッピング術など）

13時30分～ 教授回診

16時00分～ 症例検討会

火曜日：病棟業務

16時00分～ 勉強会（専門医受験対策）

水曜日：手術（主に血管内カテーテル手術）

15時00分～ 他科との合同カンファレンス

木曜日：手術（主に機能外科手術）

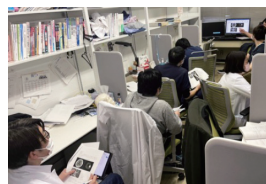
14時30分～ 多職種カンファレンス

16時00分～ 症例検討会、抄読会

金曜日：手術（開頭腫瘍摘出術や内視鏡下腫瘍摘出術、開頭クリッピング術など）

土曜日：病棟業務

13時00分～ 基礎研究抄読会



←火曜日の勉強会では、上級医と専修医が集まって、専門医試験の対策をしています。



研究活動

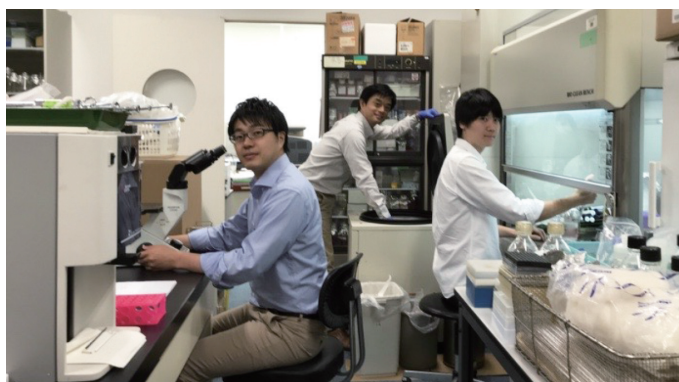
脳神経外科では、研究活動にも力を入れています。

科研費などの研究費を取得し、未知の領域を解明すべく、基礎研究を行なっています。日本大学医学部には最新の研究設備が整っております。また、本学他学部や他大学とも積極的に連携して研究を行なっています。

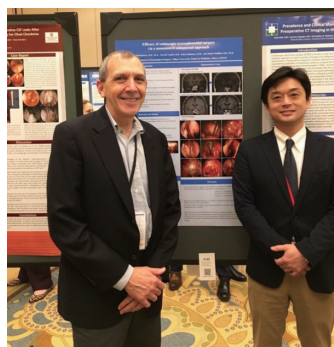
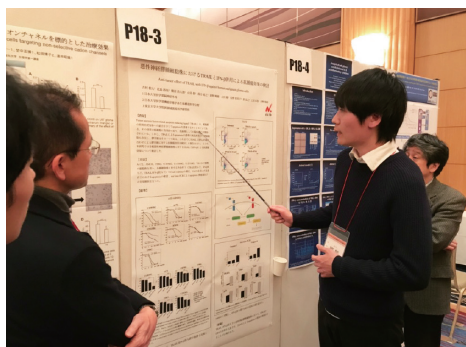
海外留学も積極的に行うことで、これまでに多くの実績を積んで参りました。

毎年、多くの先生が大学院に入って研究を行い、学位（博士）を取得しています。その成果は国際雑誌に多数掲載されています。

また、臨床研究も多数行っており、当院単独のもののみならず、多施設共同研究にも複数参加しています。



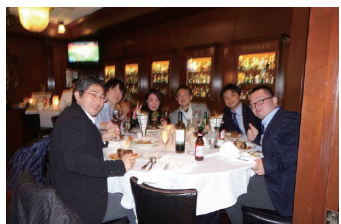
学会活動



日本大学脳神経外科は、たくさんの領域の学会で活躍しており、多数の理事や評議員を輩出しています。

主要な学会では毎年発表をして、他大学の先生方とも仲良く、切磋琢磨しています。

海外の学会にも積極的に参加しています。



海外留学

2019年は2名の医局員が海外に留学しています。留学先の内訳はハーバード大学神経放射線科に1人、Ludwing-Maximilians大学（ドイツ）に1人です。これらの留学は出向先の機関で正式に有給で採用されています。留学期間は最低1年間で5年以上留学することもあります。日本大学海外派遣研究員制度及び大学院生海外派遣制度などを利用して留学することもあります。その他にも、米国ニューヨーク大学、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）神経外科、チューリヒ大学病院、トロント大学、Toronto Western Hospital、ジョンズホプキンス大学 Johns Hopkins Hospital、マサチューセッツ総合病院／ハーバード大学医学部神経内科、仏国 WHO International Agency for Research on Cancer（リヨン）など、多数の研究機関への留学実績があります。

当直や休暇について

大学病院での当直の回数は、月に2～4回程度です。働き方改革が進み、当直の翌日は休みを取るようになっています。日本大学脳神経外科には毎年多くの先生が入局しますので、マンパワーがあります。そのため、みんなで力を合わせて、お互いにフォローし合いながら日々の仕事を充実させています。夏期休暇は2週間確保されています。年末年始やゴールデンウィークも休み（当直体制）になります。年末年始およびゴールデンウィークの当直は、原則それぞれ1回ずつです。

オン、オフのメリハリが強く、休暇もしっかり取れるのが、日本大学脳神経外科の特徴です。

日本大学以外の卒業生

これまで多くの大学から専修医や大学院生、留学生を受け入れてきました。具体的には帝京大学、岩手医科大学、愛媛大学、大分大学、香川大学、杏林大学、島根大学、信州大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学、東邦大学、独協医科大学、富山医科薬科大学、日本医科大学、宮崎大学、横浜市立大学、和歌山県立医科大学などです。卒業大学による区別は一切ありません。また初期研修を多施設で行い、後期研修を当科で行う先生もいます。

女性医師

脳神経外科では、多くの女性医師が活躍しています。現時点で、6人の女性医師が在籍しています。マンパワーが多く、助け合いながら働く環境ができていますので、体力的なことや、家庭との両立などについても、心配することなく、自分のペースで脳神経外科の研修を行っていくことができます。



脳神経外科には様々な専門領域があります。そのためか、医局員の先生達も、インテリ風からマイホームパパ、体育会系人間などバラエティーに富んでいます。

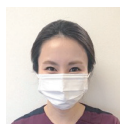
毎年60以上の大学が参加して行われる脳神経外科学会の野球大会で、日本大学脳神経外科は毎年、優勝あるいは準優勝をする常勝軍団です！

医局員の声



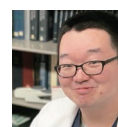
主任教授：吉野 篤緒 脳神経外科では臨床・研究・教育の3本柱を軸として、最先端の治療、質の高い研究、しっかりとした教育を行っています。教室員が国内だけでなく世界で活躍できる教室であり続けるために、日々発展し続けたいと考えています。

医局長：山室 俊 こんにちは。脳神経外科のページをご覧ください、ありがとうございます。日大脳神経外科はとても雰囲気が良いです。仕事の責任は大きいですが、やりがいがあり、毎朝出勤するのを楽しみできる医局です。是非一緒に頑張りましょう！



医員：龍岡 樹里 脳神経外科は激務で体力勝負なイメージがあり初めは不安でしたが、たくさんの仲間達と協力しあうことができるので、働きやすい環境で充実した研修を受けることができました。一度、雰囲気だけでも見に来て頂けたら嬉しいです。

専修医5年目：小澤 祥成 あっという間に時が経ち、いよいよ今年は専門医受験です。この間に大学院も卒業させて頂きました。自分はまだまだですが、先輩達を見ていると、早い段階から夜間緊急など自分一人で手術や診療を完結できるようになると思います。自分も早くそうなれるよう、頑張りたいと思います。



専修医2年目：竹内 彬 最初は何も分からないような状態でしたが、上級医の先生方が日々親身になって指導して下さいのおかげで、今では自信を持って取り組めることも増えてきました。入局1年目から多くの執刀機会を頂くことができ感謝しています。優しい先輩ばかりで、脳神経外科を選んで良かったと思っています！

問い合わせ先

日本大学医学部脳神経外科学系神経外科学分野

医局長：山室 俊

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

TEL：03-3972-8111 (ext 2481) FAX：03-3554-0425

E-mail：yamamuro.shun@nihon-u.ac.jp

